

製品の特長とお手入れ方法

本製品は缶本体の製造、塗装、印刷のすべての工程を一つ一つ作業で行っているため個体差が生じます。手作り製品の特性としてご理解下さい。



水分がつくと錆びる恐れがありますので水洗い等はしないで下さい。汚れた場合は柔らかな布でふき取りよく乾燥させてお使い下さい。



日頃まめに手のひらでなでなで頂くと、手の油でシミになりにくく艶と味を楽しんで頂けます。傷をふせぐため、缶を触る際、爪を立てないようにお気を付け下さい。



加藤製作所の缶は密閉性に優れているため、使用当初は缶の蓋が開けにくい場合がございます。その際は、蓋を斜めに回しながら開けて下さい。閉じるときも同様に斜めに回しながら閉じて下さい。ご使用に伴い、だんだんと馴染んでスムースに開閉できるようになってきて、一定期間で使用后垂直な開閉が可能になります。

- ❶ 蓋を開ける際は、蓋の上部を持って引き上げて頂くと蓋の変形等の経年変化を防止することができます。

- ❷ 缶を床に落としたり、ぶついたりすると、塗料が剥げたり、缶かへこんだりすることがありますのでお気を付け下さい。

- ❸ 粘着性の高い市販のシール、テープを缶に貼ると、塗料が剥けてしまう恐れがあります。

- ❹ 缶の切り口に十分注意し、お取り扱い下さいませ。

加藤製作所の 手作りオリジナルキャニスター

茶筒・のり缶・菓子缶などのメーカーとして120年以上の歴史をもつ、東京・浅草橋の加藤製作所で昔ながらの製法で造ったブリキ製オリジナルキャニスターです。

吹き付け塗装で、一つ一つ丁寧に手作業で塗装しているからこそ、艶と温かみを感じられる仕上がりになっています。尚、製品の材料でありますブリキは、現在食品用の缶詰に利用されているものと同一の素材ですので、食品保存上健康に問題がないだけでなく、湿気をささげり、光を遮断する構造により食品を長持ちさせる最適な環境を実現することができます。

日本製の品質の高さ、手作りの温かさを是非お確かめ下さい。きっとお気に召して頂けるはずですよ。



加藤製作所の 手作りオリジナルキャニスター



株式会社 加藤製作所

<http://katoseisaku.com>



看板猫の
もんじろうですにや
よろしくですにや



手作り缶

Printing by Mochizuki Printing Co., Ltd.
<https://www.ebis.co.jp/mochizuki/>

手作りキャニスターってどんな風に造られているの？

一枚板のブリキ板を裁断するところから整形まで一つ一つ職人が手作りで製作。抜群の気密性と、蓋と胴の間に凹凸が無く平らな構造の美しいフォルムの缶は手作り缶ならではの。



1
ブリキ板切断作業
ブリキの板から缶の部品となる部分を0.1mm単位で正確に裁断。



2
ブリキ板をまるめる
切断したブリキ板を缶の部品毎に異なる直径の円形に丸めます。一つ一つ狂わず同じサイズの円形にするのはまさに職人技です。



3
まるめたブリキを接着する
まるめたブリキ板の接合部分を接着。焦げたりしないよう、均等に接着するには熟練のスキルが必要です。



4
天底を付け 完成
機械で、缶の天板の部分と底板を押し込んで最終的に缶の完成。色々な高さ、大きさの缶があるので、経験と感覚を頼りに缶のサイズによって天底を押し込む高さの調整をしています。



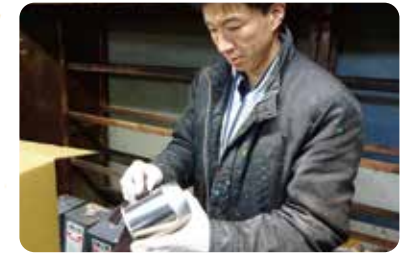
蓋と胴を合わせて完成ですにゃ

続いてキャニスターに色を付けます。

にゃ~



1
2
塗料の調色及び硬さの調整
お客様のご要望に合わせて調色します。塗料を、濃すぎず薄すぎず丁度いい硬さに調整するには十分な経験が必要です。



1
下準備
缶の表面を一つ一つ丹念に拭き、缶の製作時に付着した目には見えない汚れや油分を取り除きます。美しい塗装を施すには重要な作業です。



3
塗装
一つ一つ缶をろくろに載せ、色むらにならないよう、均等に塗料を吹き付けます。吹き付け塗料だからこそ独特の美しい色艶のある缶に仕上がるのです。
塗装ブースは50年程前、先輩職人の方がハンドメイドで造ったオリジナルのもので、それを受け継いで大事に使っています。



4
窯で焼く
窯で1時間半塗料を焼き付けます。缶の色やサイズ、外の気温によって缶を焼く位置や時間を考慮しなければなりません。



5
完成
完全に乾くまで自然乾燥させたあと、絵付師によりデザイン画が施されます。

